

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 60分

## 解答形式

記述・論述・計算・描図・選択

## 分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

昨年と同様、基本的な知識と表現力を問う問題と計算を要する問題が出題された。

## その他トピックス

〔V〕で、昨年は字数が指定されていたが、今年は指定されていなかった。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔I〕	記述 選択 描図 計算	太陽系	地学基礎 地学	太陽系の惑星の特徴についての基礎的な知識が問われた。天文単位の換算では、解答の桁数に注意すること。また、 $\text{SiO}_4$ 正四面体を描図する問題が出題された。	標準
〔II〕	記述 論述	地球磁場	地学	地球磁場についての基本的な理解が問われた。計算問題は単位換算に注意が必要である。	標準
〔III〕	記述 論述 選択	地質図	地学基礎 地学	地質図を題材に、火成岩、変成岩、地球の歴史に関して出題された。地質現象の進行については、地質時代(代・紀)に触れる必要がある。	標準
〔IV〕	記述 論述	恒星	地学	恒星のエネルギー、食連星の明るさ、共通重心からの距離、質量、公転速度などの関係が問われた。各法則を理解し、問題文を読んで式を組み立てる必要がある。	やや難
〔V〕	論述	・月の表面 ・造礁性カゴ ・第四紀氷期 ・環流 ・宇宙の進化	地学基礎 地学	五つの語句群の中から二つを選択し、与えられた語を用いて、地学的に意味のある文章を作成する問題である。 与えられた語から文のテーマを決定し、適切な語句を加えながら地学的な内容の文章にまとめる必要がある。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

広島大学の前期試験では、例年、地学基礎と地学のほぼ全分野から、記述、論述、計算など多様な形式で出題される。特に、地学現象や用語についての説明を求める論述問題がよく出題されるため、各分野の地学現象とそのしくみを理解し、自分の言葉で説明できるように練習しておく必要がある。

天文では煩雑な計算や法則を用いた計算問題が出題されるので、類似する問題に取り組んで慣れておきたい。地質図を用いた問題では、図から走向・傾斜や断層の性質を読み取る問題、地質現象の進行を問う問題がよく出題されるので、過去問などを用いて演習をしておこう。